

# てびねり

三月号

平成21年3月1日発行  
株式会社ゆしま陶助

## 東京都美術館

東京都美術館と言えば、毎年秋に開催される「日展」を思い出す人が多いと思います。左のモダンなレンガ色の建物でも有名です。当初は東京府にお金がなく九州の炭鉱王から100万円の寄付の申し出があり、ようやく1926年に東京府美術館としてスタートしたと言う逸話が残っています。設計は神田にある二コライ堂を関東大震災後、修復に功績のあった岡田信一郎でした。

岡田信一郎が設計した府美術館は、正面にギリシャ神殿風のドリス式柱を並べた建物だったそうです。（月刊岡田信一郎参照）



(上) 東京都美術館  
(下) 国立新美術館  
国立新美術館 H.P より



現在の建物は1975年に、前川國男の設計で完成しました。日本の美術館は外国と比べると自前のコレクションを持っているわけではなく、日展などのような「公募展」や新聞社などの「共催企画展」を中心に運営を続けていきますが、公募展の増加や公募の作品の増加が続き、十分に対応ができなくなってきました。

建物も30年以上経ち老朽化が進み、来年と再来年の2年間全館を休館し、大規模改修をする予定になっているそうです。現在の建物とは今年一杯でお別れということになります。

2007年に六本木の東大の施設の跡にできた「国立新美術館」は、東京都美術館の公募展や美術展のかんりの部分を担うことになるようです。ルーブル博物館や故宮博物院のようなスケールの大きな美術館が日本にもあればと思います。夢の話です。（記 佐藤）

### ◆今月の制作風景

◆二人で研究：



松川芳子さん（右）  
吉川富美子さん（左）  
お二人で参考書を見ながら、茶花用の花器作りをしています。

### ◆万年青の鉢受けです。



杉山尚子さん  
左の写真は、ご自宅で今まで作った植木鉢に見事に咲いた「眉はけの万年青（おも）」です。今回はこの万年青用の鉢受けをお作りになっています。



### ◆小さなものに挑戦：



中岡公子さん  
今日は湯呑のような蓋物のような小物作りですが、小さな器もそれなりにむずかしいものです。

### ◆ぐい呑なの



一色まりさん  
前回片口の酒器を作ったので、今日はぐい呑を作っています。ねこちゃんの絵はどうでしょうか。

### ◆今日ではびねり：



近藤律子さん  
今日はロクロ作りではなく、久しぶりにてびねりでティポットを作っています。やはりロクロで作った方が早いですね。

### ◆均等にうすく：



畑山菊恵さん  
上手に削ったのでかなり薄くなってきました。削り過ぎないように注意してください。

### ◆酸化？還元？：



佐藤真理さん  
今日は練り込みの抹茶碗の釉薬掛けです。釉薬によっては焼成方法が違ってきます。

### ◆間に合うかな：



花川和子さん  
土鍋は最近季節に関係なく使われるようになってきましたが、頑張って上手に形が整ってきました。焼成の方も頑張ります。

### ◆大きな深鉢：



田口治喜さん  
大きな深鉢の形が大分整ってきました。内外にラセンの彫りを入れる予定です。

### ◆輪花鉢です：



野口華栄さん  
白い輪花鉢が焼きあがりました。白マットに白萩の吹き掛けです。盛った料理が映えるのが目に浮かぶような素敵なお品です。

### ◆十個あるの：



浅沼範子さん  
素焼きの割山椒に、粉引の釉薬を掛けたくない場所に撥水剤を塗っています。同じうつつわを十個作ったので、かなり手間が掛かりました。がんばって下さい。

### ■私が勧める美味しい店

推薦者 奥村千恵子さん

### 魚料理・季節料理 「入船」

オープンして23年。地元の人やサラリーマンでいつも賑わっているお店です。カウンター席8席、4人掛けのテーブルが3テーブルあり、私たち夫婦が週に一度は足を運ぶお店です。

素材が新鮮で、いつも変わらない美味しい味、そしてリーズナブルな納得値段。季節の食材を使った料理が多いので、いつも何とも、四季の味が楽しめます。

定食が750円、950円。一品料理も千円以下のものがほとんどです。100年に一度の大不況のこの時代を、先取りしたような価格帯をオープンの時から守り続けてきている（入船）さんに乾杯です。



(上) 入船さんの入口  
(左上) 季節の刺身  
(左下) 推薦者の奥村さんと常連のお客様達

東西線「門前仲町」3番出口から400メートル徒歩5分ほどです。門仲（もんなか）といえ、お不動さん。その深川不動の縁日は毎月1日、15日、28日の3回開かれています。お不動さんにお参りして帰りは（入船）で食事を楽しむのもお勧めです。

私たちのお気に入りの店（入船）をぜひお訪ねください。

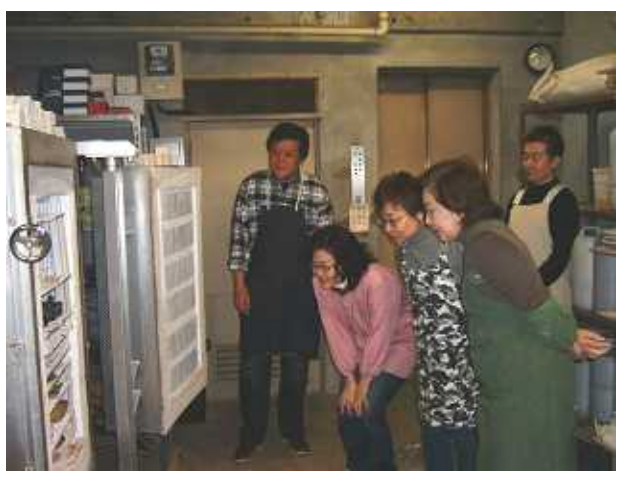


### 魚料理・季節料理 「入船」

江東区福住一 十四 二  
電話 03-3630-3139  
昼 11:30~13:30  
夜 17:00~22:30  
休み 日曜日  
地図はネット「入船」で検索してください。



**窯の見学をする  
会員の皆さん**



皆さんの作品を1回目は温度800度で約8時間素焼きをします。次はその作品に釉掛けをして、1250度で約15時間焼成し作品が完成します。



2月21日(土)今日は窯出しの日です。園部講師の案内で、会員の皆さんが交代で作品が焼き上がった窯を見学し、園部講師の説明を聞きました。園部講師は「これからはご希望があればいつでもご案内しますよ」と言っていますが、本音は「窯出し、窯入れを誰か手伝ってくれないかな」と思っているようですが、無理〃〃、作品を壊したら大変です!

**今月の作品**

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんをお願いしています。

□小林悦子さん 「花器」



手びねりで一段一段丁寧に積み上げました。縦のラインが素敵です。

□中河政子さん 「ふくろつ」



前回ご紹介した「ふくろつ」が焼きあがりました。お腹の羽に呉須をして白萩釉を掛けたのが良かったです。焼き上がったもやはり大きいですね。

□山口和江さん 「植木鉢」



土鍋の赤土で作った苔玉や小さな植木を入れる鉢です。縦半分は黒マトト釉とビードロ釉を掛けわけ還元焼成したものです。釉薬の相性も良かったです。

□石田純子さん 「香炉」



とても可愛い香炉が出来ました。小さなキャンドルにもなりそうです。黒化粧に線を彫りました。

□小野芳子さん 「ふた物」



飴釉を掛けた素朴なうつわに、梅の形のふたが付いただけで素晴らしいふた物になりました。削りが大変でしたが、努力した甲斐がありました。

□高石昌和さん 「絵皿」



今回もまた、すてきな大皿が完成しました。丸ではなく九角形の大皿に呉須と上絵が見事です。誰でも見ただけで高石さんの作品とわかるのですから素晴らしい。

□近藤真弓さん 「マグカップ」



大きさが丁度手になじむサイズで持ちやすそうです。赤土に白萩釉を掛け、下の方に飴釉をアクセントにして、還元焼成しました。

□中下友紀子さん 「マグ揃い」



ご家族が10人。一人一人の名前の入ったマグの完成です。手びねりで作り、形や大きさに合わせ名前を入れて気持ちのこもった作品に仕上がりました。白マットに流れたトルコ釉も良いです。

□山本美津子さん 「蚊取り台」



2個作ったうちの1つです。赤土に白萩を掛けた帽子型の可愛い蚊取り台です。早いようですが今から用意して置くと安心です。

□佐藤真理さん 「小皿」



白マットにスポットで飴釉を乗せました。小皿ですが、モダンで存在感がありセンスの良さを感じます。

□木谷光伸さん 「抹茶碗」



紅志野が大変よく出た抹茶碗です。掛け斑もきちんと絵になっています。抹茶の色が映えますね。

□石井孝子さん 「ランプシェード」



少し渋めの色ですが、黒マットにトルコ釉でポイントを入れたり、手の込んだランプシェードです。写真は細部がよく見えるように大きくしていますが、実際は小さくてかわいい作品です。

□平石規代さん 「花器」



タタラ板で作った花器ですが、タラで作ると歪みやすく、手が入りにくく割れやすいのですが、きれいに焼成出来ました。(ラッキー!) 色も黒マットにトルコ釉はこの形に合っています。

□鉄井理央さん 「オブジェ」



5人並んだ黒人歌手たち。馬に乗ったカップルなど夢の広がるオブジェがカラフルに誕生しました。一つひとつに鉄井さんの夢と物語があります。

**見た事・聞いた事・読んだ事**

子供達が携帯電話漬けです。

携帯電話がすさまじい勢いで普及して、幼児とかなりのお年寄りを除いて殆どの方が持っている時代になりました。歩いていても、電車に乗ってもかなりの人数が一緒に携帯電話を覗き込み盛んに指を動かしています。また、自転車の前に荷物、後ろに子供を乗せ片手で走りながら盛んにしゃべったり、メールを打つ若いお母さん達。異常としか言いようがありません。たくさんあった公衆電話はそれなりに便利だったのですが、今はすっかり姿を消し、見つけるのに苦労する状態になりました。

最近の新聞の調査で、携帯電話の所有率が、小学生で24.7%。中学生で45.9%、高校生は95.9%とほぼ全員が所有している状態です。そして、メールのやり取りも夜11時以降寝る小学生で64%、中学生で74%、高校生87%という凄まじさ。とうとう東京都教育委員会が2月末に「子供にケータイ。本当に必要ですか?」と2段階抜きの新聞広告を打ちました。子供に携帯電話を買い与える前に、今一度その必要性を考えてください。というわけです。遅きに失した感が否めません。一度便利に使った携帯電話を手放させることは容易なことではありません。子供を携帯漬けにしておいて何を今更と思います。

最近公立小学校で学級委員長を20年ぶりに復活したとニュースになっていました。が、クラスのリーダー役である学級委員長を人権団体とやらが「なれなかった子供が傷つき、劣等感が生まれる」という理由で長いこと止めていたということですが、それなら携帯電話を持ってない子供もいるはずだから、人権団体とやらが「携帯を持ってない子供が傷つく、劣等感が生まれる」と強力に反対すれば、こんなに深刻な社会問題になるほど普及しないので済んだのではないかと思います。(佐藤)